

会員の広場

Member's Voice

今月の会員の広場では、1月号へのご意見・ご感想を紹介いたします。まず、特集「モデリングとツールを駆使したこれからのソフトウェア開発技法」には以下のご意見をいただきました。

■「アスペクト指向ソフトウェア開発とそのツール」は非常に分かりやすい説明で参考になりました。(森谷俊洋)

■特集記事は大変興味深いものであったが、ハード開発に携わってきたものとしては、ソフトウェア開発手法の発展を羨ましくも思った。ハードウェア開発に関してもLSI開発等においては同様な手法を採用している部分もあるが、このような開発手法の体系化ができるとうれしいものであると感じた。(青木道宏)

■「組み込みソフトウェア向け開発支援環境」に興味深く拝見いたしました。「組み込みソフトウェア立国へ」この言葉の実現に期待しています。携帯電話、デジタル家電、デジカメ、各種メカトロ端末などの開発技術は、米国基本ソフトの利用ではなく、日本独自のオペレーティングシステム開発から応用システム開発まで一貫した技術が育成されつつあり、「技術立国日本」の有望技術となりつつあるようです。10年ほど前からハードとソフトの協調設計「コデザイン」が研究され始め、非常に微細な技術が求められる携帯電話市場などを先頭に新しい「匠の技」が日本でも裾野を広げつつあります。市場が技術者を育て技術者がそれに応え市場を拡大する、この正循環が本物になれるよう次世代の技術者育成に貢献していきたいと思っています。この技術基盤を育ててこられた諸先輩の方々に敬意を表したいと思います。(北村和彦)

■「モデリングとツールを駆使したこれからのソフトウェア開発技法」：ソフトウェア開発の新しい方法としてのモデル駆動開発手法について興味深く読ませていただきましたが、ソフトウェア開発は、複数の人がグループ等を組んで行うのが一般的であるため、人的側面との関連、特にプロジェクト管理（著者も触れておられますが）についての

研究も必要だと思います。

(中島豊四郎)

■特集記事に関して興味深く読ませていただきました。今後ソフトウェア開発を行っていく上での参考になりました。(匿名希望)

解説記事「天候デリバティブの動向」に対して以下のご意見をいただきました。

■デリバティブは、経済分野で特に関心を集めている領域です。今後も社会科学との接点を持ち得る記事を期待します。(水野光朗)

■天候の経済活動への影響の定量評価の実例が分かり、大変参考になった。影響の大きさは予想を遥かに超えるが、異常気象が多発する昨今だけに、今後、予報精度向上への期待とともに、天候に関するリスク管理手法の動向に着目したい。(匿名希望)

連載記事に対しては次のようなご意見をお寄せいただきました。

■RFIDタグには多くの人が注目していると思います。しかし、用途ごとにいろいろな製品が出ているようで、詳細な仕様とかシステムの内容となるとメーカーでないとよく分からないというのが実情ではないかと思います。情報処理学会らしい切り口での連載が始まることを期待します。(小野 勉)

■「スマートタグ」について。この連載にも言えることだが、RFIDに関して論じられている記事では「流行している」や「注目を集めている」という記述がある。たしかに産業界、社会インフラにおいてこれが事実であることは世の中の様子を見れば明らかである。しかし、極端な言い方をすれば、RFIDはオブジェクトを認識するのに非常に都合のよい、簡単に認識精度を向上させることができる道具に過ぎない。にもかかわらず、単に「(既存のバーコードなどの代用として)今流行のRFIDを使ったから新しい研究である」というお粗末な論文を目にすることが多い気がする。最近ニュースや会誌などでやたら取り上げられることが、このような状況を作っている一因なのではないかと感じた。もちろん、記事の中にも論じられているようにRFIDタグには多くの問題点があるので、それについて検討してそれを解決していく、という工学的な視点の研究もあるだろうし、それらは非常に興味深い。(匿名希望)

■ついにスマートタグの連載が始まりました。連載を開始するにあたり、前書きもあり、今後の連載に期待しています。ただ1つ注文するとすれば、今後も写真が多く掲載されると思いますので、カラーページで読んでみたい

です。 (匿名希望)

■「とっきょ Now! : ASEAN の知的財産事情」: 経済成長の著しい ASEAN の知的財産事情がよく分かりました。情報学のみならず、東南アジア研究者にも一読を勧めたいと思います。ところで、IT といえば、南アジアでの急成長ぶりも世界的な耳目を集めています。南アジアにおける知的財産の現状についても知りたいと思います。「日本の情報処理技術の足跡: 日本語情報処理の諸相」: 日本語処理の場合、やはり一番ネックになるのは、漢字かな処理であると思います。こうした取り組みを振り返り、今後の開発に生かす大変読みがいのある記事でした。 (水野光朗)

その他、コラムや編集系独白などについてのご意見もいただきました。

■「アメリカ IT まわりの話題: 骨董コンピュータの祭典」: 古いマシンを持つ人々の熱気の伝わるお話でした。San Diego のごちんまりとした似たような博物館で Apple I の復刻版というのを見ましたが、ちょっと感動ものでした。日本でも、このような博物館とかあれば面白いと思います。 (匿名希望)

■アメリカのすごさは、新技術の開発と同様に古い技術を保存していることにあります。日本でも、古い技術を組織的に保存する試みがなされてもよいと思います。 (水野光朗)

■本文を読む前に必ず「編集系独白」を読んでいます。読む前には興味がなかったテーマでも興味が湧き、未知の分野への第 1 歩を踏み出すきっかけになっています。これからも読者に興味を湧かせるような紹介をお願いします。 (匿名希望)

■「情報技術と教育: ファカルティ・ディベロプメント」: 学部全員の教員が行う講義を録画・記録して Web で配信する講義記録システムは、学生・教員にとって実に合理的かつ有効なシステムだと思います。九産大でいち早くこのシステムが導入・実践されているのに感心しました。できれば、それまでの苦労話などをご紹介していただけたらと思います。 (中島豊四郎)

■専門外ですが、楽しく読めました。 (匿名希望)

今後取り上げてほしいテーマとしては、以下のご意見をいただきました。

■ Grid Computing 技術の利用が広まりつつあるが、どんなシステムにも限界があるわけで、その限界を理解せずに期待だけが広まると有望技術を失うこともあり得ると思っています。特に Grid Computing 技術については期待が大きいだけに、その原理と限界について正しく理解しておきたいと思っています。Grid Computing の原理と応用限界について提供していただけたら幸いです。 (北村和彦)

■量子コンピュータ/暗号の現状を知りたいです。 (匿名希望)

会誌や掲載記事に関するご意見・ご感想は学会 Web ページでも受け付けております。今後もよりよい会誌を作るため、ぜひ皆様のお声をお寄せください。

【本欄担当 泉 正夫、永井保夫/書評・ニュース分野】

✎ ご意見をお寄せください!!

皆様にとって会誌をより役立つものとするため、

- ・記事に対する感想、意見
 - ・記事テーマの提案
 - ・会誌または学会に対する全般的な意見、提言
 - ・その他、情報処理技術についての全般的な意見、提言
- など、自由なご意見、ご感想をお待ちしております。

なお、「道しるべ」については
<URL : <http://www.ipsj.or.jp/07editj/toukou/michishirube/michishirube.html>>
でこれからのテーマ案を募集しており、いただいたご意見をまとめております。
※ご意見、ご感想を会誌に掲載させていただいた方には薄謝を進呈いたします。掲載に際しては、編集の都合上、ご意見に手を加えさせていただくことがあります。あらかじめご了承ください。

応募先 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F
情報処理学会 会誌編集部門 E-mail:editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8375
<http://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/enq/enq4504.html>

皆様からいただいた会誌へのご意見は下記 Web ページにも掲載しております。
<URL : <http://www.ipsj.or.jp/07editj/dokusha/dokusha.html>> (読者からの声)

